

# ぼらんていあニュース

文京ボランティア支援センター

平成29年10月号

文京区で、

## はじめませんか！？ ボランティアの秋！

活動者インタビュー！



文京ボランティア支援センターでは、地域でボランティア活動をしたい！  
といった方々のサポートをしています！「特技」や「活動をしたい！」  
「地域に貢献したい！」というあなたの想いを活動につなげてみませんか！？

## 「文京ボランティアまつり2017」

**ボランティア募集！！**

11月18日(土)に開催する  
「文京ボランティアまつり2017」の運営や準備の  
ボランティアを募集します！説明会もあるので、  
初めての方でも安心して参加できます！

**日程**

11月17日(金) 前日準備  
11月18日(土) まつり当日

**定員**

40名程度  
(応募者多数の場合は抽選)

**場所**

文京区民センター

**説明会**

11月8日(水) 19時～  
区民センター2階 2-A会議室

**申込**

10月20日(金)までに電話・FAXまたは社協HP申込フォームにて

②③ 活動者インタビュー ④あなたと地域をつなぐ情報サイト「どっとフミコム」

# 活動者インタビュー

## 見つめ直すきっかけ

### 活動をはじめたきっかけは何ですか？

全国盲学校弁論大会で、優勝したことがきっかけです。題目は、「笑顔」でした。視覚に障がいをおい、自暴自棄になった自分に、友人から「とりあえず笑え！」という言葉をかけられ、「笑顔」がきっかけで友人、仲間、家族が笑顔になり、自分自身も前向きになれたという話をしました。この弁論大会後、地元取手市などで、講演をさせていただいたり、小学校の福祉の授業の講師をする機会が増えました。またパラリンピック競技であるゴールボールを子どもたちへ普及していきたいという想いもあります。

東洋大学3年  
山口 凌河さん

### 活動を通して得たものや学んだことはありますか？

講演などを通して、自分の考えや想いを「見つめ直す」きっかけとなっています。人前で話すことで、自身の想いや経験を振り返ることができ、自分自身の成長につながりました。

また、友人たちとのつながりも強くなったように思います。地域の学校で講話やアイマスク体験、ゴールボール体験をする時は、大学や地元の友人と一緒に行き、活動をしています。障害の有無に関係なく、普通に協力し合える仲間の存在はとても大切です。障害者と健常者が一緒に活動することで子ども達に伝えられるものがあると思っています。

### 今後、どのような活動をしていきたいですか？

東京パラリンピックに向けて「ゴールボール」、「視覚障がい者」についての普及啓発が、私の役割だと考えています。競技者として努力することはもちろんですが、今後、文京区内でも自分の経験などを積極的に伝えていきたいです。



日本代表強化指定選手として活躍中

#### ■Profile

東洋大学 社会学部  
社会福祉学科3年生/  
ゴールボール日本代表  
強化指定選手  
中学2年生の時に難病  
により、視覚に障害を  
おう。高校時代に全国  
盲学校弁論大会に出  
場。地元取手市などで  
視覚障がいへの理解、  
ゴールボールの普及  
活動や講演会等積極  
的に行っている。

## 活動をはじめたきっかけは何ですか？

大学では、生活科学部で、家族や子育てなどについて学んでいます。学校で勉強しているだけだと分からないことも多いのでは、と感じていました。実際に現場に行ってみようと思いボランティアセンターに行ったことがきっかけです。ボランティアセンターは、中学生の頃に「夏のボランティア体験教室」に参加した時に来たことがあり、今回も相談に行きました。

また現在、大学3年生で授業の数も少なくなり、自由に使える時間が増えたため、色々な経験をするために時間を使いたいと思いました。「ボランティアをするなら今だ！」と思い、活動をはじめました。

### 活動を通して得たものや学んだことはありますか？

私は、初めて有料老人ホームでボランティア活動をしました。今まで、介護の現場は「人手不足」というイメージがありました。そのため、施設内はすごく忙しくバタバタしているのかなと想像していました。しかし、実際は、とても落ち着いた雰囲気、高齢者施設へのイメージが変わりました。また高齢者施設という重度の方たちが生活されている場所という印象を持っていましたが、施設の形態によって生活されている方は色々なのだと分かりました。

実際に現場に行くことによって、大学の勉強だけでは分からなかった、感じられなかった部分を学ぶことができていると思います。

さらに、レクリエーション活動での声かけの仕方、活動内容の工夫、道具の工夫など様々な働きかけによって、入居者の方の表情が変わっていくのを見近で見ることができて、楽しいですし、勉強になります。

### 今後、どのような活動をしていきたいですか？

現在は、レクリエーション活動だけの関わりですが、実際の食事介助やその他の介護現場の見学などもしてみたいと思います。またこういった活動を「細く長く」続けていけたらと思います。

## 百聞は一見にしかず



お茶の水女子大学3年  
酒井 伸子さん

#### ■Profile

お茶の水女子大学  
生活科学部3年生/  
中学生の時に「夏の  
ボランティア体験教  
室」に参加。  
大学での勉強を生か  
し、実践してみよう  
と思いボランティア  
活動をはじめた。  
現在は、区内にある  
有料老人ホームにて  
、レクリエーション  
の時間のボランティア  
を行っている。

# 活動者インタビュー

## 東京でできる被災地支援を



文化シャッター(株)  
土方 智希さん

### ■Profile

#### BXマルシェとは？

東日本大震災の復興支援として、文化シャッター(株)、東洋大学ボランティア支援室、社会福祉法人山鳥の会が共催するイベント。東北3県(岩手県・宮城県・福島県)の水産加工品、酒類、製菓、農水産物などの販売やワークショップを開いて被災地の方々と交流することで自分たちができる支援について考えるきっかけづくりをするを目的としている。

大規模な地震により被災した熊本など、全国で支援を必要とする方々のニーズを適確に捉え、様々なステークホルダーと連携することで支援活動の幅を広げていきます。また、東北復興支援活動としては、現地の子どもたちを対象にしたこどもまつり開催による交流と、東京で開催するBXマルシェによる支援の二段構えで交流を継続していくと共に、新たなニーズにも応えていきたいと考えています。

## 活動をはじめたきっかけは何ですか？

3・11の震災発生当時から宮城県亘理町と交流を持ち、主に現地での支援活動を実施してきました。これまで被災地でのボランティアに参加できなかった従業員にも、被災地との交流の場を提供したいという思いが常にありました。そこで、被災地の産業を支援すると同時に「知る支援」という新たなテーマを趣旨としたBXマルシェを開催し、現地に赴くことなく東京でできる支援を実現しようと始めたのがきっかけです。

## 活動を通しての被災地支援に関する考えや想いを教えてください

被災地がいまだ多くの課題を抱える中、弊社は変化する被災地へのニーズに応じた支援活動を継続していきたいと考えています。さらに、支援という形を越えて永続的に繋がりを持ち続けたいという想いから、このBXマルシェのテーマを「地域と被災地のコミュニケーション」としています。BXマルシェをきっかけに、新たな交流が生まれ支援の環が繋がることを願っています。

## どんな人に来て欲しいですか？

このBXマルシェでは、地域の方々と共に連携してつくりあげていくために、主催をBXマルシェ実行委員会として、地域の大学や社会福祉法人の方々にも委員として加わっていただきました。当日は、地域の方々や近隣の企業、学生の方など多くの方にお越しいただき、東北の方々と一緒にイベントを盛り上げていただけたらと思います。

## 今後、どのような展望がありますか？



BXマルシェの様子

## 活動をはじめたきっかけは何ですか？

大きなきっかけというものは無く、私自身が「やってみたい」と始めた事がボランティア活動になっています。4年前から続けているスポーツボランティアは「ボランティアとしてオリンピックに出たい！」という発想から始めました。初めて参加した大会の時に、ボラ仲間から声をかけてもらい、スポーツボランティア団体に加入。活動の幅が広がり、継続して活動できるようになりました。手話の勉強は以前から興味があり、区報で養成講座の募集を見つけ、受け始めたことがきっかけ。3年目に入り、奥の深さを実感しています。

「ボランティアをしよう」というよりも「知りたい」という気持ちや、「ちょっと手伝うよ」という声かけから、いつのまにかそれが【ボランティア活動】になっているようです。「ボランティアをやる」という意気込みよりも、興味のある事をやってきた結果が、少しだけ誰かの役に立っているのではないかと思います。

## 活動を通して得たものや学んだことはありますか？

色々なことに目が向くようになりました。たとえば、街にいる聴覚や視覚などの障害をお持ちの方や高齢者などさまざまな人や、場面に出会ったとき、その方は困っているのか？何か必要なのか？と立ち止まって考えます。またボランティア活動というのは、想像力が大切と実感しました。福祉学習サポーターとしてホテル従業員向け研修の高齢者疑似体験に参加した際「首が上がりにくい」「ものが見えにくい」など高齢者の特徴によって、高い位置にある非常口の案内が見えにくい、ホテル内の方向が判りにくいなどの注意点を伝えました。それは自分の高齢者疑似体験をしたときの実感と、ホテルという環境をもとに考えて思いついたものです。ボランティア活動ではその場ごとに状況が違うので、想像力をフルに働かせ行動することが大切と感じています。

## 今後、どのような活動をしていきたいですか？

まずは東京五輪にボランティアとして参加したいという目標があります。そのためにはさまざまな経験を積んでいきたいです。最近ではボランティアリーダーという資格を得たいと思っています。ボラ仲間のためにも役に立つボランティア活動ができれば、より広いつながりが生まれるのではないのでしょうか。

## 「ちょっと手伝うよ。」の一言から



齋藤みささん

### ■Profile

スポーツボランティア、手話講習会受講、ガイドヘルパーボランティア、福祉学習サポーターなど多岐にわたり活動を行っている。最近ではパラスポーツのボランティアにも積極的に参加するよう心がけている。

※福祉学習サポーターとは地域の学校などで行われる福祉の授業のサポートをしてくださる方です。



# あなたと地域をつなぐ情報サイト

まずは **どっとフミコム** で **検索**



「どっとフミコム」とは文京区内で活動する団体の紹介や各イベント情報など区民の方たちがつながる、活動するための情報サイトです！  
ボランティアしたいけど何ができるの？  
区内にはどんな団体があるの？など地域活動に関する情報が多く載っています。

## ボランティア情報

## 団体紹介

<b>NEW</b> ボランティア・スタッフ募集 誕生会や行事（忘年会）で演奏を披露して下さる方募集しています。 2017年09月04日掲載	<b>NEW</b> ボランティア・スタッフ募集 東京ユナイテッド 小石川運動場ボランティア 2017年07月04日掲載	<b>NEW</b> NPO法人 COMPASS 2017年09月01日掲載	<b>NEW</b> 一般社団法人WIT 2017年08月30日掲載
---	---	--	--

## イベント情報

## お知らせ

<b>NEW</b> 社会福祉法人による焼き立てパンを販売しています！ 2017年09月06日掲載	<b>NEW</b> 平成29年度東京医科歯科大学公開講座「健康を考える」～長寿・健康人生 2017年09月06日掲載	<b>NEW</b> 子どもゆめ基金（1次募集） 2017年09月06日掲載	<b>NEW</b> 日本郵政グループ 2018年 年賀寄付配分回体の募集 2017年09月06日掲載
---	---	--	---

どっとフミコムでは、ボランティア情報以外にも地域でのイベント情報やお知らせ、文京区内で活動されている団体の紹介など様々な情報を見ることができます！  
気になるイベント、お知らせ、団体などぜひチェックしてみてください！



QRコードで直接アクセスできます！

発行：社会福祉法人 文京区社会福祉協議会 文京ボランティア支援センター  
〒113-0033 文京区本郷4-15-14 文京区民センター4階  
TEL 3812-3114 FAX 5800-2966  
開所日 月～金曜日（祝日年末年始除く） 窓口開所時間 8:30～17:15  
Eメール vorasen@bunsyakyo.or.jp  
ホームページ <http://www.bunsyakyo.or.jp>

